

## 在宅酸素療法が必要と言われました

在宅酸素療法が必要と言われたあなた、からだの酸素が足りないのです。

人間のからだがちんと働くためには酸素は欠かせません。色々な病気からだの酸素が低い状態(低酸素血症)があり、それによってからだに障害が出た状態を『呼吸不全』と呼びます。この状態が1ヵ月以上続く場合が慢性呼吸不全です。COPD(慢性閉塞性肺疾患)、肺結核後遺症、間質性肺炎、肺がんなどが原因のことが多いです。在宅酸素療法が必要と言われたあなたは、このような状態にあります。

この低酸素血症を改善するためには、くすりと同様に酸素を吸入する必要があります。酸素が十分あるかどうかは、動脈から採血して酸素分圧を測定します。また指にセンサーをつけて、指先の色でからだの酸素の量を知ることできます(経皮的酸素飽和度)。動脈血の酸素分圧が、60mmHg以下(酸素飽和度が90%以下)の時、呼吸不全と言われます。

病院で酸素を吸入するように、自宅でも酸素を吸入できるようにしたものが在宅酸素療法です。一定の条件で、社会保険も適用されます。適用基準は動脈血酸素分圧が、55mmHg以下(酸素飽和度が88%以下)です。また動脈血酸素分圧が、55mmHg以上でも、60mmHg以下であれば、睡眠時や運動時に低酸素血症になる場合なら適用にな

ります。

自宅では、酸素供給装置(酸素濃縮器や液体酸素タンク)からチューブを通して酸素を吸入します。チューブの先は鼻の下で固定するような鼻カニューレを用いることが多いです。外出の際は、軽量の酸素ポンペを用います。良く使われる酸素濃縮器は小型の冷蔵庫のような機械で、電気で動きます。室内の空気の酸素濃度は低いので酸素吸入には適しませんが、この機械で空気を濃縮して酸素濃度を約90%にして治療に使えるようにしたものです。

酸素を吸入する量や時間は、主治医と相談して決めます。息切れの改善が一つの目安ですが、動脈血酸素分圧(酸素飽和度)がある程度改善するようにします。夜間は、呼吸の活動が低下して思いの外、低酸素血症になっていますので、酸素吸入が必要なことが多いです。

もし、病気によって肺の働きが悪くなって、酸素が足りないだけでなく炭酸ガスが高くなっている場合には、呼吸運動を助けるような装置も必要となります。

医療費、医療機器の維持費など経済的負担が増え、家族への負担も増えますが、色々な社会的資源を活用することができます。例えば、身体障害者福祉法で呼吸機能障害の認定が受けられる場合もあります。また介護保険も申請できます。

MEMO

日本呼吸器学会では学会ホームページにて「市民のみなさま向け」に様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください！



## 呼吸器の病気

Respiratory disease

『疾患別』に症状や、診断・治療方法を解説しています。

## 呼吸器

Q&A



『症状から』対応方法などをQ&A形式でお答えします。

※ここに書かれている内容は、あくまで一般的なものであり、必ずしも貴方の病気にあてはまらない事もありますので、この内容を参考にし、呼吸器の専門医の診察を受けてください。

日本呼吸器学会  
ホームページ

[www.jrs.or.jp/](http://www.jrs.or.jp/)